

風しんに対する免疫をもたない妊娠初期の女性が風しんに感染すると、赤ちゃんが白内障、心疾患、難聴などを主な症状とする「先天性風しん症候群」にかかってしまう恐れがあります。

国立市では、先天性風しん症候群対策として妊娠中の女性への風しんの感染を防ぐため、風しんワクチンもしくは麻しん風しん混合（MR）ワクチンのいずれか1回の予防接種費用の一部を助成します。

このワクチンの接種は、効果や目的、副反応等を理解した上で、希望する方に行う「任意の予防接種」です。

下記の注意事項をよくお読みください。

○風しん

風しんウイルスの飛沫感染（注1）によって起こる病気です。潜伏期間は2～3週間です。発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹を特徴とします。そのほか眼球結膜の充血もみられます。発疹も熱も約3日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。血小板減少性紫斑病は患者3,000人に1人、脳炎は患者6,000人に1人くらいの割合で発症しています。大人になってからかかると重症になりやすく、関節痛がひどいことも特徴といわれています。

（注1）ウイルスや細菌がせきやくしゃみなどで空気中へ飛び出し、約1mの範囲で人に感染させること。

○麻しん

麻しんウイルスの空気感染（注2）によって起こる病気です。感染力が強く、予防接種を受けないと多くの人がかかる病気です。10日前後の潜伏期間の後、発熱、せき、鼻汁、目やに、発疹を主症状とします。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うと、また39～40℃の高熱と発疹が出ます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失しますが、しばらく色素沈着が残ります。主な合併症は、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎です。脳炎は1,000人に約1～2人の割合で発症がみられます。また、亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という慢性に経過する脳炎は約10万例に1～2例発症します。

（注2）ウイルスや細菌が空気中へ飛び出し、1m以上を超えて人に感染させること。

1. 対象者： 予防接種の者の対象者は、予防接種を受ける日において、国立市内に住所を有する19歳以上の方のうち、
(1)妊娠を予定、希望する女性、(2)妊婦の同居者、(3)(1)の同居者の方のいずれかに該当する方で、かつ、次のいずれかに該当する方。ただし、過去に予防接種を2回以上受けたことがある方及び過去に本事業を利用したことがある方は対象者となりません。

- ① 抗体検査を受けた方で、HI法(赤血球凝集抑制法をいう。)においてHI抗体価が「8倍」「16倍」等であった方、EIA法(酵素抗体法をいう。)においてEIA価が8.0未満(デンカ生研)であった方又は国際単位①30IU/ml未満(シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス(株)、極東製薬工業(株))②国際単位45IU/ml未満(シスメックス・バイオメリュー(株)、ベックマン・コールター(株))であった方。
- ② 妊婦健康診査において風しんに対する抗体保有が不十分と判断された方。
ただし、予防接種は出産後に行ってください。
- ③ 前号に掲げる者のほか、市が認める方法により抗体保有が十分でないことが確認された方。

※妊娠中や妊娠している可能性がある場合は接種することができません。申し込み後に妊娠が判明した場合も接種しないでください。
なお、昭和37年4月2日から昭和54年4月1日の間に生まれた男性の方で、風しん第5期の定期接種の対象となる方は、本事業をご利用いただけません。

2. 接種するワクチン： 風しんワクチンもしくは麻しん風しん混合（MR）ワクチンのいずれか1回

3. 接種費用： 風しんワクチン・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3,000円
(自己負担) 麻しん風しん混合（MR）ワクチン・・・・ 4,000円

※生活保護又は中国残留邦人等支援給付受給世帯の方は無料となります（接種の際、受給証明書を国立市内指定医療機関に提示してください）。 裏面へつづく

4. 次の方は接種できません

- ① 現在妊娠中もしくは妊娠の可能性のある方（なお、接種後2～3か月間は妊娠を避ける必要があります）。
- ② 37.5℃以上の熱のある方（医療機関で検温します。）
- ③ 重篤な急性疾患にかかっている方
- ④ 27日以内に、生ワクチンの接種を受けた方
- ⑤ 6日以内に、不活化ワクチンの接種を受けた方
- ⑥ 水ぼうそう、おたふくかぜなどにかかり、治ってから2～4週間程度たっていない方。また、かぜ（鼻水・せきなどの症状）にかかり、治ってから1～2週間程度たっていない方
- ⑦ 輸血またはガンマグロブリンの投与後3か月以上たっていない方（ガンマグロブリン大量療法の場合は6か月以上）
- ⑧ その他、医師が不相当と判断した方

5. 予防接種を受けるにあたって医師に相談が必要な方

次に該当する方は、主治医に前もって診ていただき、当日の診察で接種可能と認められれば、受けることができます。

- ① 心臓、腎臓、肝臓、血液の病気、発育障害などで治療を受けている方
- ② 予防接種で、接種後2日以内に発熱の見られた方
- ③ 予防接種で、接種後に発疹、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられた方
- ④ 麻しん・風しんの予防接種の成分に対して、全身性発疹などのアレルギーと思われる異常をおこすおそれがある方
- ⑤ 今までに、けいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ⑥ 免疫の異常を指摘されたことのある方。また、近親者に生まれつき免疫不全の方がいる方
- ⑦ 家族や友人などで麻しん（はしか）、水ぼうそう、おたふくかぜ等にかかっている人と接触した方

6. 副反応について

① 風しんワクチンの副反応

主な副反応：発疹（過敏症）（全身症状）、じんましん、紅斑、痒痒（かゆみ）、発熱（過敏症）（全身症状）、頸部その他のリンパ節の腫脹（はれ）、関節痛（全身症状）（局所症状）、発赤、腫脹（局所症状のはれ）、疼痛

重大な副反応：ショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病

② 麻しん風しん混合（MR）ワクチンの副反応

発疹、蕁麻疹（じんましん）、紅斑、多形紅斑、そう痒、発熱、不機嫌、口頭紅斑、口腔咽頭痛、咳、鼻汁・鼻閉、眼脂、食欲減退、腹痛、下痢、嘔吐、頸部その他のリンパ節腫脹、頭痛、関節痛、発赤、腫脹、硬結、疼痛

重い副反応：ショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳炎・脳症、けいれん

7. 接種後の注意

- ① 接種後30分間は、まれに急な副反応がおこることがありますので、医療機関と連絡をとれるようにしておきましょう。
- ② 接種部位を清潔に保ちましょう。接種当日の入浴はさしつかえありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ③ 接種当日はいつもの生活をしてかまいませんが、はげしい運動はさけましょう。
- ④ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、医師の診察を受けましょう。
- ⑤ 接種後2～3か月間は妊娠を避ける必要があります。

8. 健康被害の救済について

任意予防接種で健康被害が生じた場合は、健康被害の程度により、国立市が加入する全国市長会予防接種事故賠償保険の対象となります。また、独立行政法人医薬品医療機器総合機構による健康被害救済制度の対象となります。（予防接種法に基づく健康被害救済制度の対象にはなりません）